

第4学年国語科学習指導案

日時 平成16年9月10日(金) 2校時
児童 男6名 女5名 計11名
指導者 黒澤 みほ子

1 単元名 場面をくらべて読もう

教材名「一つの花」 今西 祐行 作

2 単元について

第4学年の読むことの目標は、「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」である。本単元は、戦争中と戦争後の場面を比べて読み、戦争を体験した人々の思いや願いを考えることを主目標としている。主教材「一つの花」は、ゆみ子一家の戦争体験を描いた物語であり、戦争と平和について考えるとともに戦争をもってしても失われることのない人間の真の愛を感じることができる作品である。この作品の中に繰り返される、ゆみ子の「一つ」「一つだけ」という言葉には戦争についての深い悲しみが表現されているとともに、作品全体には父や母のゆみ子への深い愛情や「一つの花」に託した父の強い願いが感じられる。また、戦争中と戦争後という二つの場面によって構成されているので、それを比べて読むことによって、戦争の悲惨さを浮き彫りにし、平和への願いをより強く感じさせることが可能となる。そして、どんな世の中でも変わらない家族の思いを叙述をもとにしながら読み取り、登場人物の心情に迫ることで、文学作品を読み味わうことの楽しさにも気付かせることができる単元である。

児童は、昨年度「ちいちゃんのかげおくり」で戦争に関連した物語の学習をしている。4年生になってからは、翻訳作品「三つのお願い」で主人公の心の動きを叙述に沿って読み取るとともに、友だちに関する本を読み感想を交流し合った。そして、「白いぼうし」では、同じシリーズの本を読んで主人公の人柄を考えたり、それを表現したりしてきた。読書好きな児童が多く毎日読書を続けているが、読書量や興味には個人差があり、読むジャンルが偏ってしまう児童もいる。そこで、読んだ本の中からおすすめのを朝の会のスピーチなどで紹介し合うようにしてきた。しかし、内容や自分の思いを豊かな言葉で伝えることが難しい児童もいる。また、文章を根拠にして話したり、自分の考えをはっきりさせて交流し、高め合ったりするところまでには至っていない。

指導にあたっては、「一つの花」という作品との出会いを大切に、コスモスという一つの花に象徴される悲しい中にも美しいものの存在を単元全体を通して感じ取らせていきたい。導入では、「一つ」という言葉に着目させながら戦争当時のゆみ子一家の生活の様子をつかませていく。また、児童にとって戦争は遠いものであるため、少しでも当時の状況を知るために戦争の状況を書いた読書材を紹介し、導入段階からいろいろな作品に触れさせていく。そして、読み深める段階では、「一つ」という言葉や文末表現、登場人物の思いと言動がうらはらになっている部分などに着目し、ゆみ子の様子と両親の姿に寄りそいながら読み進め、戦争によってゆみ子一家から喜びやささやかな幸せが奪われていったことをとらえさせる。しかし、場面を比べて読むと、戦争によってたくさんのもが奪われていながら、十年後のゆみ子は明るく心豊かに成長している。それはなぜなのか、この戦争をもってしても奪えなかったものについて考えを深めさせていく。特に、子どもを必死で守り、心豊かに成長してほしいと願う親の愛情について考えさせていく。そこで本時は、戦争中と十年後のゆみ子の姿を比べて読み取ったことを生かして、ゆみ子が明るく心豊かに成長したわけを考えさせていく。そして、親の思いを疑似体験させるために「おはじきの木」で父親の思いを感じ取らせ、実際の作品の中には表現されていない「一つの花」の父親の思いを想像させていく。本時は、父親の立場になって自分なりの言葉で思いを表現することを「豊かに考える」とこととらえる。普段、児童があまり考えを及ぼすことが少ない親の愛情について本当の意味で理解させることは、大変難しいことであるが、それを考えるきっかけとなるようにしていきたい。さらに、発展読書では、戦争やその後の状況の中にある人間の愛に触れさせながら、読み広めていきたい。

3 単元の目標

場面を比べながら、戦争当時やその後の状況を進んで読もうとする。(関心・意欲・態度)

戦争当時の登場人物と場面の状況とを、叙述をもとに想像しながら読むことができる。(読むこと ウ)
題名やかぎとなる言葉に注目し、作品全体とのかかわりを考えることができる。(言語事項 エ・ア)

4 指導計画(12時間扱い)

段階	学習活動		時間	評価規準					
				関心意欲態度	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	
一次	見通しをもつ	導入読書	作品を読んで全体像をとらえ、初発の感想を書く	1	読んで自分の感じたことを書こうとしている。		感想をまとめて書くことができる。	作品の全体像をつかむことができる。	新出漢字を読むことができる。
			初発の感想を交流し合い、学習計画を立てる	1	感想を進んで話そうとしている。	ここに残ったことを中心を明確にして話することができる。			「一つ」という言葉に着目することができる。
			戦争のことを書いた本を紹介したり読んだりする。	1	戦争のことを書いた本を進んで読もうとしている。			戦争のことを書いた本を感想を持ちながら読むことができる。	
二次	読み深める	並行読書	戦争中の暮らしの様子を読み取る。	2	戦争中の暮らしの様子を本や話から知ろうとしている。	戦争中の暮らしについての話をきくことができる。		戦争中の暮らしの様子を叙述をもとに想像することができる。	「一つだけ」という言葉に注目して考えることができる。
			めちゃくちゃに高い高いをするお父さんの行動の裏にある気持ちを読み取る。	1	お父さんの行動の裏にある気持ちを読み取ろうとしている。			お父さんの行動の裏にある気持ちを読み取ることができる。	
			戦争に行く父と見送る母の思いや願いを読み取る。	1	父や母の思いや願いを読み取ろうとしている。		コスモスの花に託した父の思いを書き込むことができる。	戦争に行く父と見送る母の思いを読み取ることができる。	倒置法やダッシュに着目して考えることができる。
			十年後のゆみ子とお母さんの生活の様子を読み取る。	1	十年後のゆみ子とお母さんの生活の様子を比べて読み取ろうとする。			十年後のゆみ子とお母さんの生活の様子を読み取ることができる。	
			ゆみ子が明るく成長したわけを考える。	1 本時	ゆみ子が成長したわけと親の愛情について考えようとしている。	友達の思いと自分の思いを比べながら聞くことができる。	ゆみ子が成長したわけと親の愛情について自分の考えをまとめることができる。	ゆみ子が明るく心豊かに成長したわけを親の愛情に考えを及ばせながら読み取ることができる。	
三次	ひろめる	発展読書	戦争に関する作品を読む。	2	戦争当時やその後の状況から登場人物の思いを感じ取ろうとしている。		いちばん心に残ったことを中心に、自分の感想をまとめることができる。	戦争当時やその後の状況から登場人物の思いを考えながら読むことができる。	
			交流会を行う。	1	友達の話と自分の思いを比べながら聞き、考えを深めようとする。	いちばん心に残ったことを中心を明確にして話することができる。		自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方に違いがあることを知ることができる。	

5 本時の指導

(1) ねらい

十年後のゆみ子が明るく成長したわけを考え、戦争でも奪われることのない親の愛情について考えることができる。

(2) 本時の授業の仮説

国語科で次のような読書活動を行うならば、豊かに考える子どもが育つだろう。

仮説1 親の愛情を深く考えるきっかけとするために、重ね読みの活動を組み入れること。

仮説2 父親の思いを感じさせることのできる「おはじきの木」を読書材として選定すること。

仮説3 戦争によっても奪われなかったものについて、自分の考えをまとめ、友達の考えを比べながら話し合い考えを深める場の設定をすること。

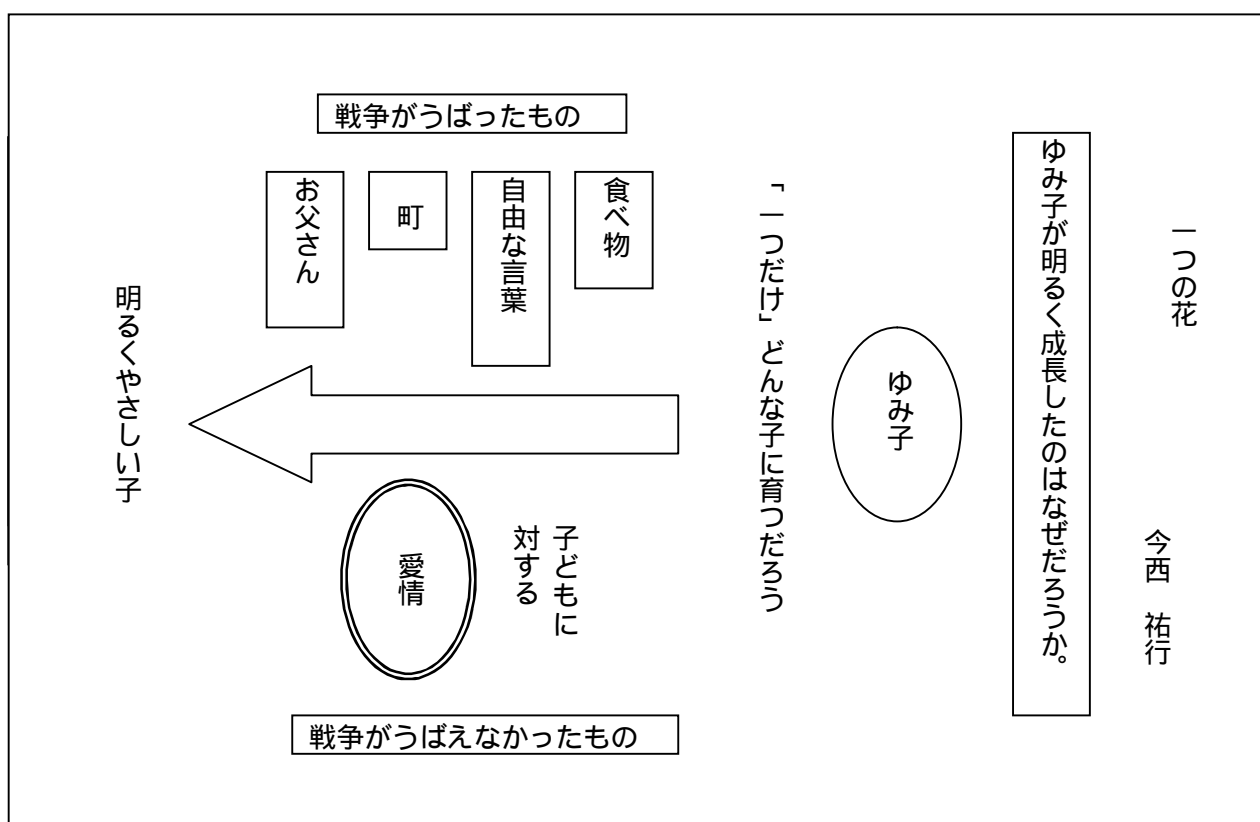
(3) 展開

段階	学習内容	支援と評価	準備
導入 5	<p>1 前時の学習を想起する。 ・前時に学習した十年後のゆみ子の姿を振り返る。</p> <p>2 本時の課題を確認する。 ・ゆみ子が明るく成長したわけを考えていくことを確認する。</p>	<p>ゆみ子が明るく心豊かに成長したと父親が登場していないことを確認する。</p> <p>ゆみ子が明るく成長したわけを周りの人たちの思いからも考えていくことを確認する。</p>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ゆみ子が明るく成長したのはなぜだろうか。 </div>		
展開 30	<p>3 学習の見通しをもつ。 ・主教材と読書材から考えていくことを確認する。</p> <p>4 自分の考えをもつ。 ・ゆみ子が明るく心豊かに成長できたわけについて自分の考えをもつ。</p> <p>5 話し合う。 ・「おはじきの木」をもとに父の思いについて考えを深める。 ・「一つの花」の父の思いを考える。</p> <p>6 まとめる。 ・話し合ったことをもとに自分の考えをまとめる。</p>	<p>これまで読んできた読書材ももとにして考えていくことを確認する。</p> <p>ゆみ子が明るく心豊かに成長できたのは父や母の愛情があったからだということに気付かせる。</p> <p>戦争をもってしても奪えないものについて考えを及ぼせるために「おはじきの木」の父親の心情に迫らせる。特に、「あの子のしあわせが、いつまでもつづいてほしい。」と女の子の幸せを願う場面やかなこと女の子がおはじきをする場面に着目させる。</p> <p>自分の考えと友達の考えを比べながら聞き、同じところや違うところに気付かせる。 ゆみ子が明るく心豊かに成長したわけについて親の愛情に考えを及ぼせながらまとめさせるようにする。</p>	<p>ワークシート</p> <p>読書材</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> まとめ例 ゆみ子が明るく心豊かに成長できたのは、いつも変わらない子どもに対する温かく強い親の愛情があったから。 </div>		
		* 十年後のゆみ子の成長の裏にある戦争でも奪われることのない親の愛情について考えることができたか。	
終末 10	<p>7 本時の学習を振り返る。 ・自己評価をし感想をまとめる。</p> <p>8 次時の予告をする。</p>	<p>自分の考えの深まりが自覚できるようにさせる。</p> <p>戦争に関する作品を読むことを確認する。</p>	<p>振り返りカード</p>

(4) 評価

評価場面	具体の評価規準	十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する児童への支援
ゆみ子が明るく心豊かに成長したわけについてまとめる場面 (発言・ワークシート)	読 ゆみ子が明るく心豊かに成長したわけについて親の愛情に考えを及ばせながら読み取ることができる。	ゆみ子が明るく心豊かに成長したわけについて親の愛情と戦争でも奪われることのないものを関連付けて読み取っている。	ゆみ子が明るく心豊かに成長したわけについて親の愛情に考えを及ばせながら読み取っている。	これまでの場面でゆみ子が両親から受けた愛情について思い起こさせる。

(5) 板書計画



6 利用する読書材

- | | | |
|-------------|--------|------------|
| 『おはじきの木』 | あまんきみこ | (あかね書房) |
| 『おかあさんの紙びな』 | 長崎源之助 | (岩崎書店) |
| 『すみれ島』 | 今西祐行 | (偕成社) |
| 『とろろながし』 | 松谷みよ子 | (偕成社) |
| 『わたしのひろしま』 | 森本順子 | (金の星社) |
| 『おこりじぞう』 | 山口勇子 | (新日本出版社) |
| 『戦争と平和』 | 子ども文学館 | (日本図書センター) |